

みんなが創る希望の郷 あわが
豊かな自然を守り 笑顔あふれるまちづくり

ふるさと自立計画

第2次 粟鹿地域まちづくり計画

令和5年3月 粟鹿地域自治協議会



ふるさと自立計画

第2次粟鹿地域まちづくり計画

みんなで創る希望の郷 あわが
豊かな自然を守り 笑顔あふれるまちづくり

令和5年3月
粟鹿地域自治協議会

みんなで創る希望の郷 あわが

豊かな自然を守り 笑顔あふれるまちづくり

粟鹿地域自治協議会は平成20年に設立され、今日まで多くの事業を実施してきました。これらの事業は、平成23年に長期的な視点にたち策定された第1次「粟鹿地域まちづくり計画」を基本に年度ごとに事業計画に組み入れられ今日に至っております。

第1次の計画から13年が経過し、社会情勢の変化とともに粟鹿地域も人口及び世帯数が減少し、平成23年には粟鹿小学校が閉校となるなど少子高齢化が深刻化し見直しが必要となってきました。

まちづくり計画の再構築にあたり、朝来市の紹介により兵庫県からも補助金が予算化され準備を整えました。

策定にあたり、役員会にてプロジェクトチームを結成して検討することが決まり、各区より推薦いただいた方々に委員を委嘱しました。メンバーは男女ともに各年代で構成、朝来市にはアドバイザーの派遣を依頼し、市職員もチームに参加していただきました。

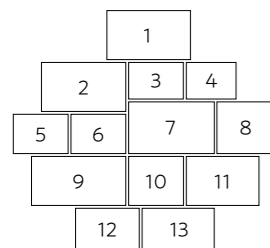
令和4年に住民の意向を調査する目的で中学生以上の全住民にアンケートを実施しました。詳細な解析はアドバイザーに依頼し、この結果を基に毎月1回会議を開催し検討してきました。

会議では多方面から意見が出され、粟鹿地域の将来に対する課題と目標について多くの貴重なアイデアを集積することができました。

令和5年度からは、この計画に基づき自治協議会は活動してまいります。

住民の皆様には「みんなで創る希望の郷—あわが」の実現にご支援とご協力をお願いいたします。

最後にアンケートにご協力いただいた関係各位、また、プロジェクトチーム員・アドバイザー・市職員の皆様には長期間に亘りご負担をお掛けしたことにお礼と感謝を申し上げます。



1. 雪の降る粟鹿神社
2. 粟鹿山登山
3. 粟鹿山登山
4. 西谷藤
5. あわが花舞台
6. 桜並木
7. 5年生粟鹿山看板取付
8. 喫茶バンビ
9. 農業体験2年生さつまいも掘り
10. オータムコンサート
11. あわがふれあい運動会
12. 農業体験6年生田んぼ耕耘
13. クリスマス会

粟鹿地域自治協議会
会長 中島 義明

目次

序章 地域まちづくり計画について	1
1 地域まちづくり計画の位置づけ	
(1) 地域まちづくり計画とは	
(2) 粟鹿地域まちづくり計画の役割	
2 計画の対象と構成等	
(1) 計画の対象	
(2) 目標年次と取り組み	
(3) 取り組みの役割分担	
第1章 粟鹿地域の現況	2
1 粟鹿地域の位置・地勢・交通・名所旧跡・産業	
2 粟鹿地域の人口・世帯数及び将来予測	4
第2章 まちづくりの主要課題	8
1 粟鹿地域の魅力と課題	
2 アンケート・プロジェクトチームの意見集約	
第3章 粟鹿地域が目指す将来像	10
1 まちづくりのテーマ	
2 まちづくりの基本方針と施策	
第4章 まちづくりの推進に向けて	12
1 粟鹿地域まちづくり計画の推進体制	
2 計画の見直し	
参考資料	14
1 プロジェクトチーム名簿	
2 編集委員会名簿	

序章 地域まちづくり計画について

1 地域まちづくり計画の位置づけ

(1) 地域まちづくり計画とは

朝来市では令和4年に第3次朝来市総合計画を策定しました。今後の目標、施策の仕組みや過程を表すまちづくりの指針となる市政運営の最上位計画です。この計画では「人と人がつながり幸せが循環するまち～対話で拓く朝来市の未来～」を将来像とし、「市民一人一人が主役」「人と人をつなぐ対話」「未来へのまなざし」を、まちづくりを進めていくうえでの特に意識すべき視点として位置づけています。朝来市が進めてきた市民自治のまちづくりをさらに推進し、市民力や地域力を高めることが大切だと考えられています。

地域においてもそれぞれの地域の将来像を描き、実現していくために「地域まちづくり計画」を策定します。市内11自治協議会において策定されている地域別のまちづくり計画は、朝来市総合計画の地区別計画として位置づけられており、地域特性に応じた取組みを積極的に支援するとされています。

(2) 粟鹿地域まちづくり計画の役割

ア 地域での活動・事業における役割・関係を明確にする。

イ 地域での活動の効率化が図れる。

ウ 地域に必要な公共サービスの優先順位がわかる。

エ 地域まちづくり計画を作ることが大切な自治活動の経験となる。

2 計画の対象と構成等

(1) 計画の対象

粟鹿地域まちづくり計画の対象は粟鹿地域を範囲とします。

(2) 目標年次と取り組み

粟鹿地域まちづくり計画は、長期的な地域のまちづくり基本方針や今後の取り組みを示すものであり、おおむね10年後のあるべき姿を描くことを目標とします。

自治協議会を中心として住民、各種団体等が協働して実現するものとします。

(3) 取り組みの役割分担

地域でできることは地域主体で、専門知識が必要な場合は様々な能力を有する方と協働で、行政がしなければならないことは行政主体で行うなど役割分担を明確にします。



第1章 粟鹿地域の現況

1 粟鹿地域の位置・地勢・交通・施設・名所旧跡・産業

粟鹿地域の主な産業は、水稻を中心とした米、黒豆、岩津ネギ等の農業及び粟鹿山を中心とした広い面積を占める山林を活かした林業である。



粟鹿の地名は、大昔に食糧難で人々が飢えに苦しんでいた時に、三保から鹿が3本の粟の穂をくわえてやってきて、その粟によって人々が救われたことに由来する。その後、見国岳と呼んでいた山を「粟鹿山」と呼び、粟鹿山のある一帯を「粟鹿」と呼ぶようになった。

① 粟鹿神社



② 當勝神社



③ 鹿園寺



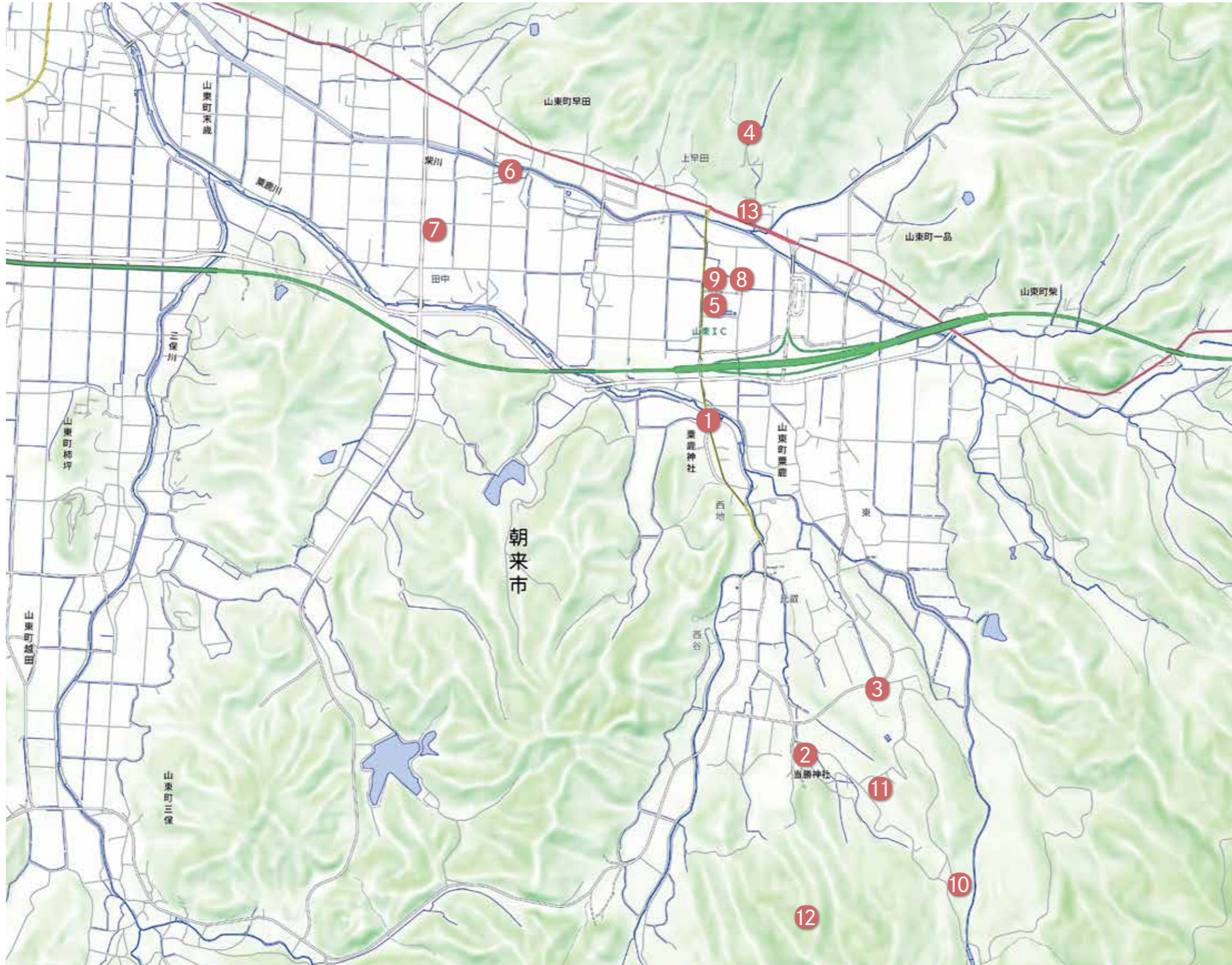
④ 大同寺



⑤ 粟鹿地域自治協議会



⑥ 柴川桜



地理院地図

⑦ コウノトリの巣塔



⑧ 農村環境改善センター コミセン



⑨ 旧粟鹿小学校体育館



⑩ 雄滝・雌滝



⑪ 自然の家



⑫ 粟鹿山



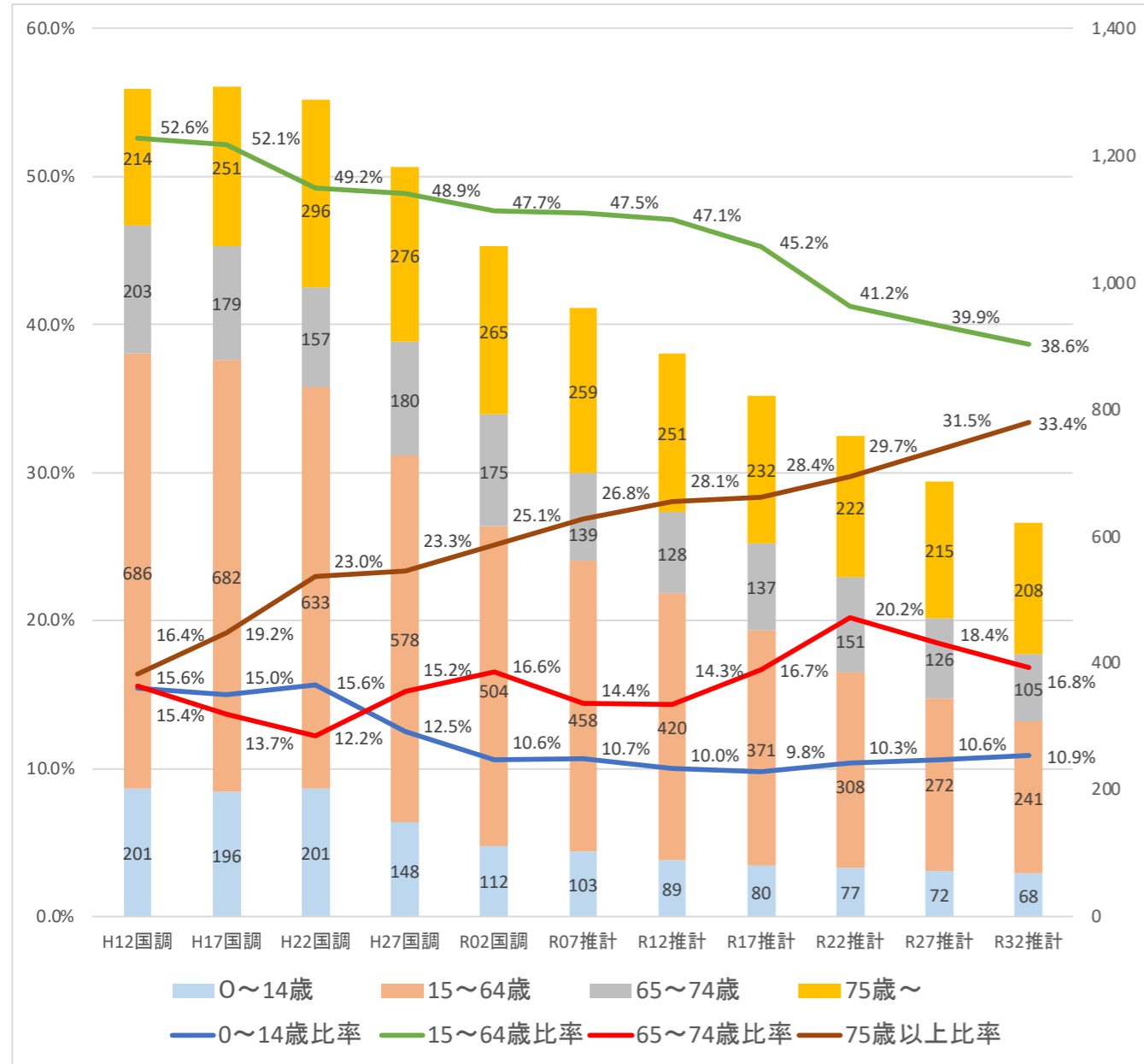
⑬ あわが保育園



2 粟鹿地域の人口・世帯数及び将来予測（令和4年11月現在）

(注)令和2年国勢調査を基に「将来人口・世帯予測ツールV2」を使用した。

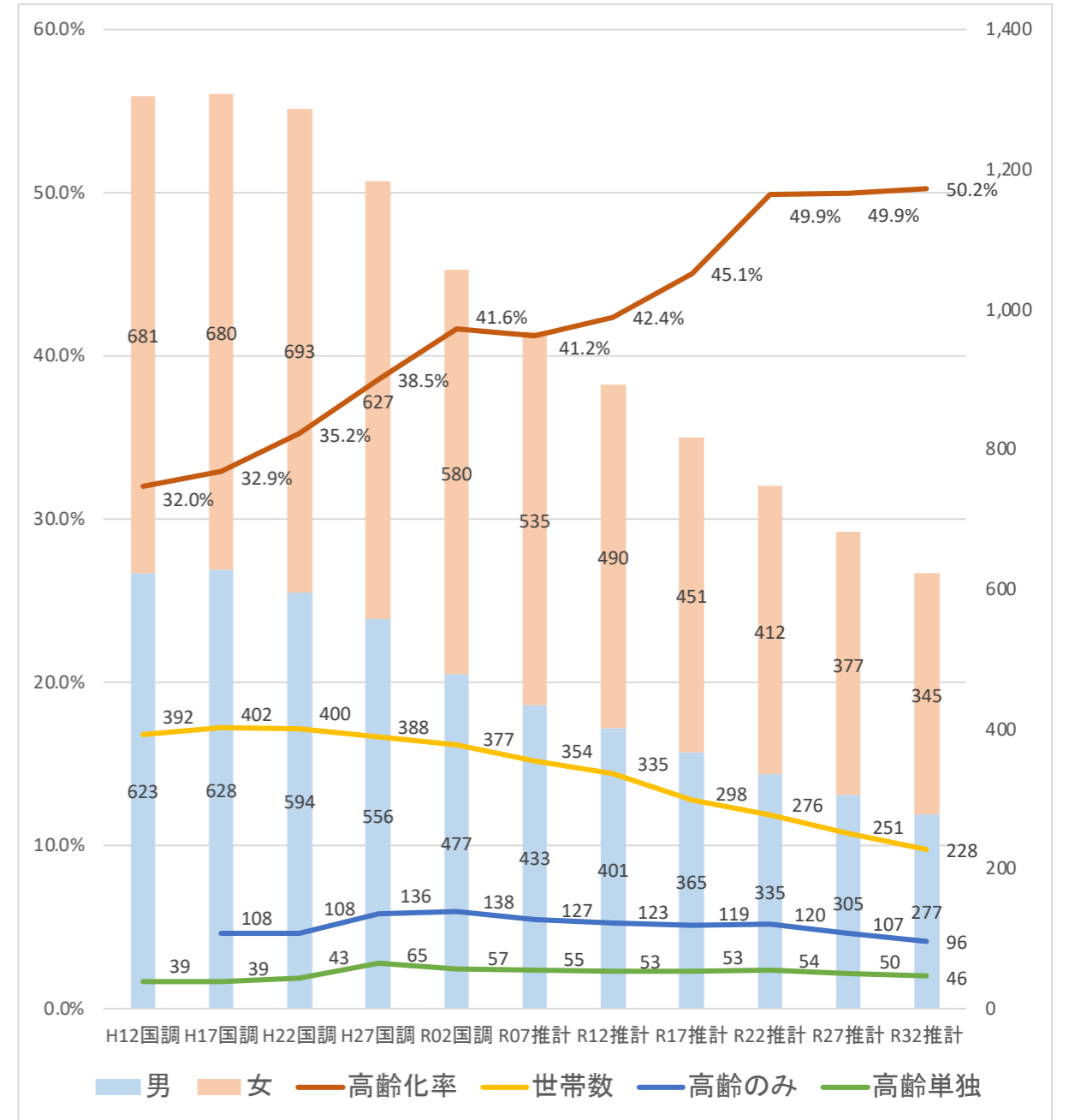
粟鹿地域人口の推移



国勢調査から、粟鹿地域は10区から成り、人口は1,029人です。

人口の将来予測は、年々減少傾向を示し、令和17年には約800人程度まで減少します。特に64歳以下の人口減少が顕著で約450人と全体の半数近くまで減少します。また、65歳以上の人口に変化が少ないため高齢化率が高くなります。子どもである14歳以下の人口は80人程度まで減少し、少子高齢化がさらに進行すると予測されます。

粟鹿地域世帯構成の推移

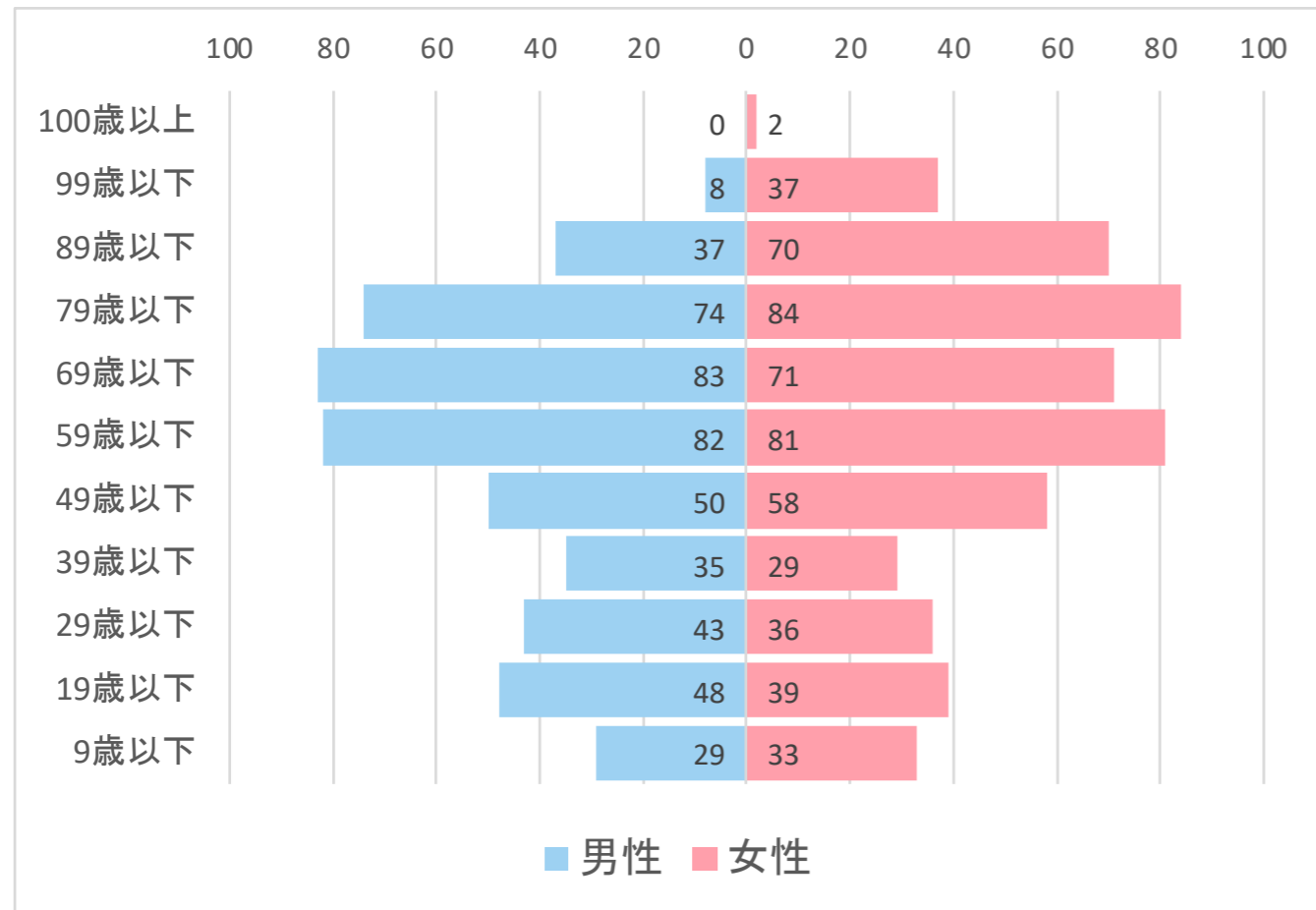


令和4年現在、世帯数は424世帯です。

世帯数の将来予測は、年々減少し令和17年には300世帯程度になります。そのうち高齢者のみ、及び高齢者単独世帯が約170世帯となり、半数以上が高齢者だけの世帯となります。

世帯数と人口減少は、限界集落とされる65歳以上の人口比率50%に近付き過疎化がさらに進行し、その結果、空き家の増加が深刻な状況になると予測されます。

粟鹿地域人口ピラミッド

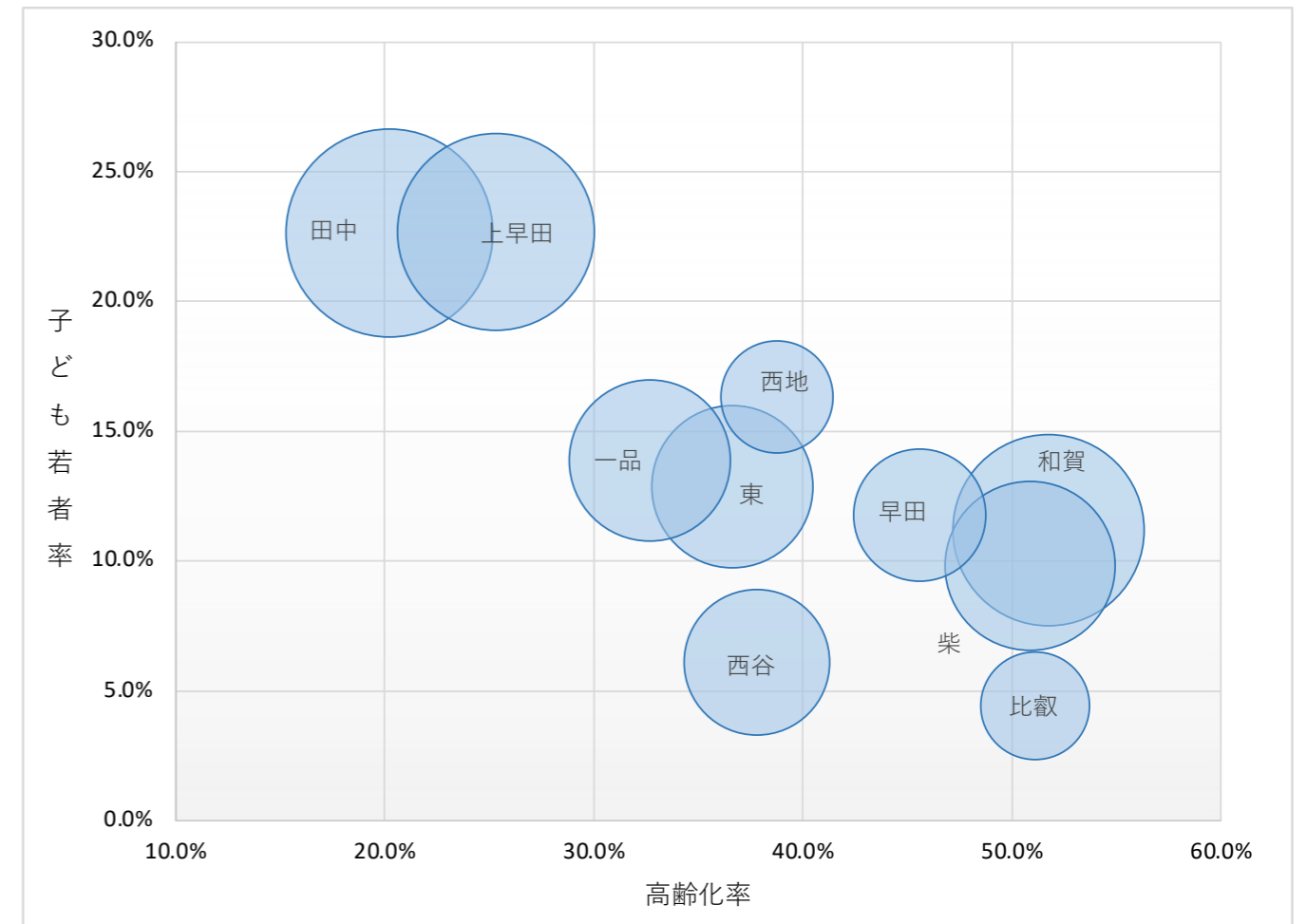


令和4年現在、50歳以上の人口は629人・比率61%、49歳以下は400人・比率39%です。20歳から49歳の若者世代の人口減少が顕著で異形な逆ピラミッド型になっています。主な要因として、高等学校卒業後に大学進学及び就職を機会に粟鹿を離れて他の地域で生活の基盤を築くことが考えられます。

若者世代の人口減少は将来の農林業等の後継者不足となり、耕作放棄田や荒れた山林が増加することが予測されます。

粟鹿地域各行政区の状況

*子ども若者：20歳未満、高齢者：65歳以上、縦軸は子ども若者率、横軸は高齢化率の表し、一品区は緑風の郷世帯は含まれていません。



このグラフでは、田中・上早田区は人口も多く65歳以上の高齢化率も約20%程度です。田中区は新興住宅地に、上早田区は集合住宅に比較的若い世代が多く入居された結果と考えられます。

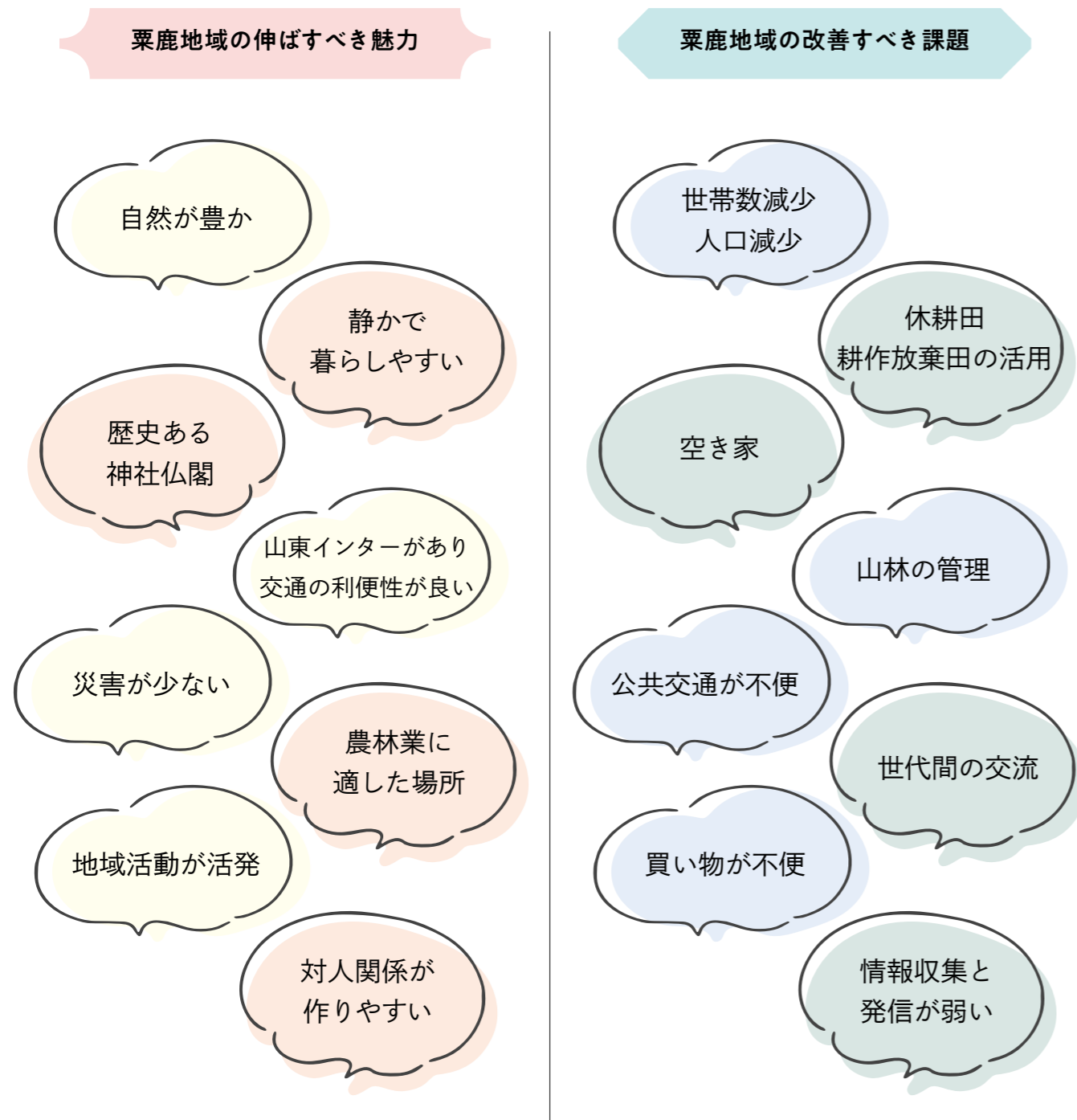
和賀・柴区は、人口は多いものの高齢化率が高く、また、比叡区は、人口も少なく高齢化率も高い状況にあり限界集落化することが心配されます。その他の区の高齢化率及び子ども若者率は、その中間に位置するものの将来的に高齢化率がさらに高くなること予測されます。

朝来市の進める移住・定住対策と合わせ、粟鹿地域も各区が連携した対策が必要と考えられます。

第2章 まちづくりの主要課題

令和4年に中学生以上全住民アンケート調査を実施しました。その後28名でプロジェクトチームを編成し、主要課題について検討しました。そこで見えてきた粟鹿地域の方向性は次のとおりです。

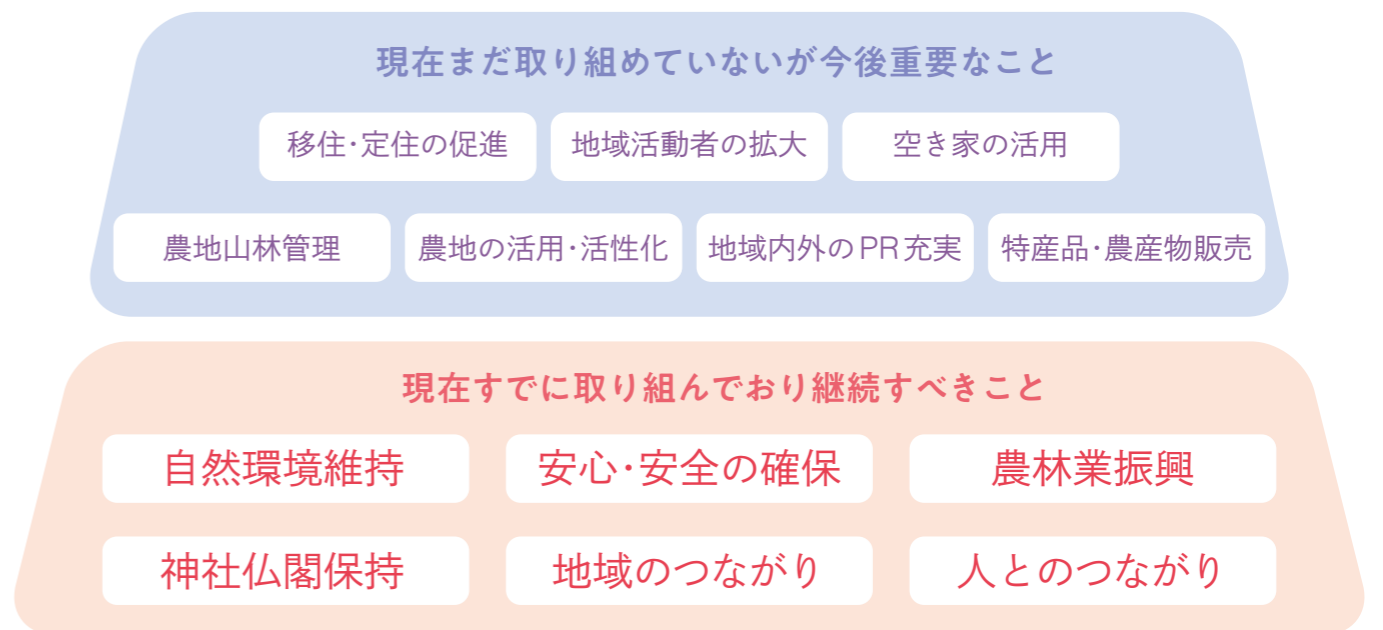
1 粟鹿地域の魅力と課題



2 アンケート・プロジェクト会議の意見集約

これまでに第1次まちづくり計画に沿って実施してきた取り組みを評価し、将来において継続すべき事業と十分な結果を果たせなかった取り組みを明確にしました。

第1次まちづくり計画の活動から見えてきた内容



3 まちづくり計画の基本方針

まちづくり計画プロジェクト会議を重ね、第2次まちづくり計画の基本方針を策定しました。

- (1) 人とのふれあい交流のあるまちづくり
- (2) 持続可能な農林業を活かすまちづくり
- (3) 自然を守り活かすまちづくり
- (4) 安心安全に暮らせるまちづくり
- (5) 住む人が来る人が心ときめくまちづくり
- (6) 情報収集と発信ができるまちづくり

上記の6項目を基本方針とし、実現するためにアンケートやプロジェクト会議を通じて得た多くの意見を反映する取り組みと具体的事業例を策定しました。

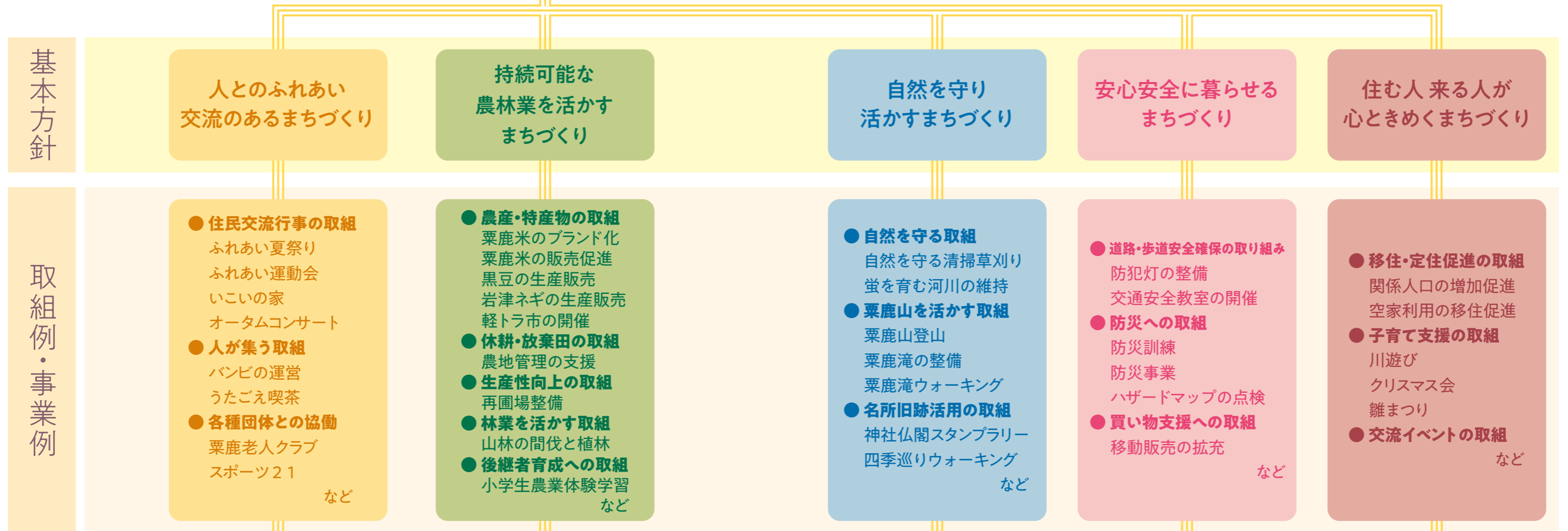
1 まちづくりのテーマ

みんなで創る 希望の郷 あわが
豊かな自然を守り 笑顔あふれるまちづくり

粟鹿地域は、雄大な粟鹿山の麓に広がる田園地域です。農林業を中心に発展した地域であり、自然を活かした西宮市立山東自然の家や山東アウトドアビレッジを有し、由緒ある神社仏閣もあり歴史・文化的にも誇れる地域です。粟鹿の歴史や豊かな自然を守り、住民が笑顔あふれるまちづくりを地域住民、各種団体・行政等と協力しながら進めていきます。

2 まちづくりの基本方針と施策

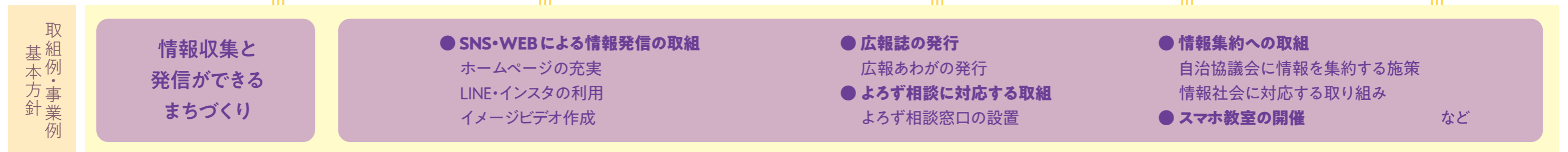
将来像を実現するための6つの基本方針



粟鹿地域内の「取組み」や 地域の魅力の「情報収集」と「発信」

地域で頑張る人を応援するために「情報収集」を積極的におこない

元気な地域をみんなが実感する「情報共有」とPRを目的とした「発信」に取り組む



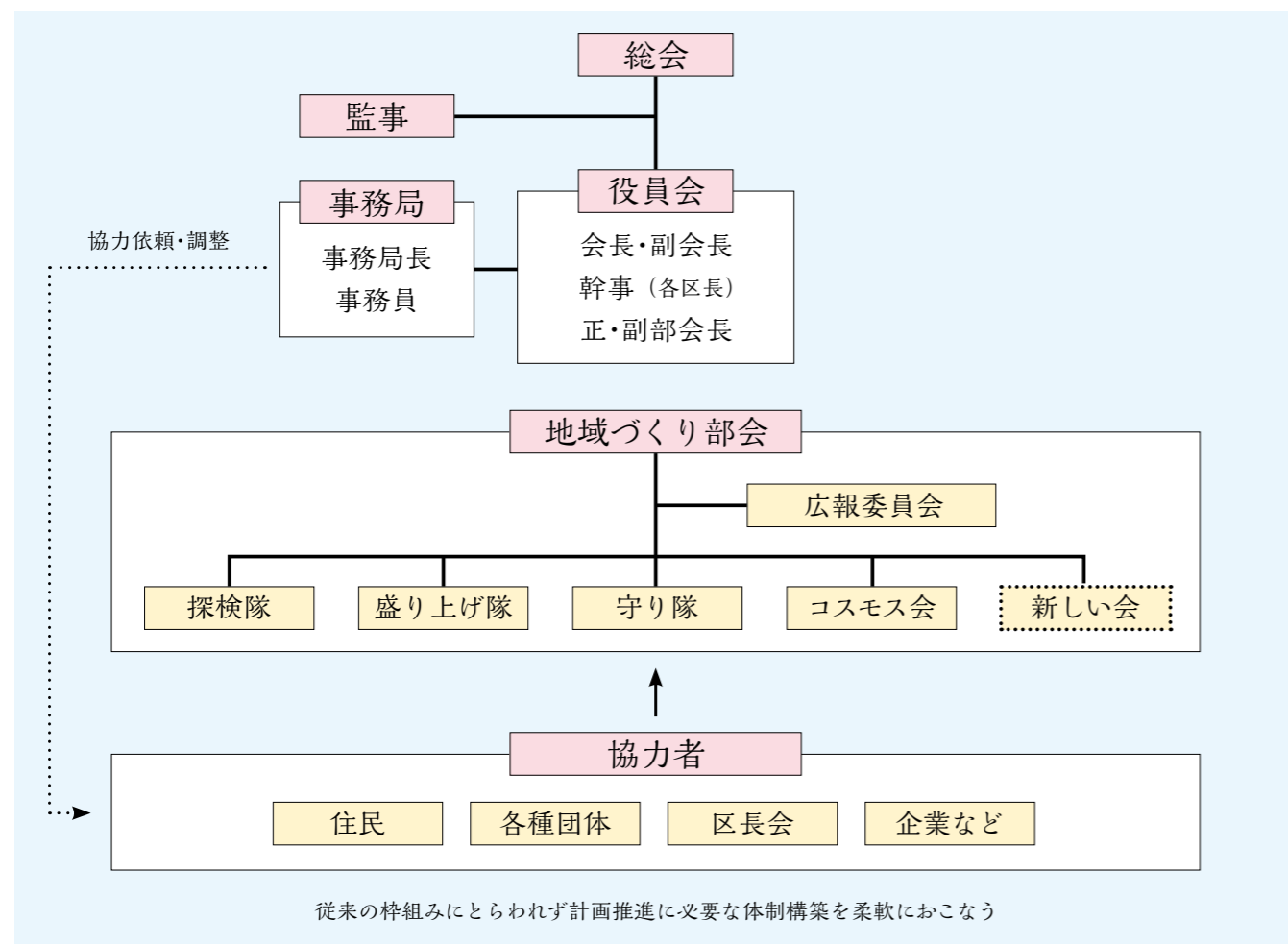
第4章 まちづくりの推進に向けて

1 粟鹿地域まちづくり計画の推進体制

粟鹿地域まちづくり計画を実現するには住民、企業や各種団体が一体となって課題解決への意識を共有し、取り組むことが不可欠です。

そのために、現在の組織体制を維持しながら、今後地域づくり部会や実行委員会等について検討し、必要に応じて柔軟に見直しを行いながら、新たな推進体制を作っていきます。

粟鹿地域自治協議会まちづくり推進体制



ここがポイント!

新たな推進体制として、地域づくり部会等の既存の体制に捕らわれず事業毎に協力可能なサポーターの役割を果たす推進体制を構築します。

協力者は地域の住民だけでなく誰でも参加可能とし、その把握及び調整は粟鹿地域自治協議会事務局がその責任を果たします。

2 計画の見直し

粟鹿地域まちづくり計画の取り組みの進行管理するためPDCAサイクルを利用した推進管理を行います。また毎年、計画について役員会を中心として進捗状況を確認し、見直しを含め検討します。

計画の推進管理図



PDCAサイクルとは・・・Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Action(改善)の頭文字を取ったもので計画から改善までを1つのサイクルとして行い、管理業務の効率化を目指す考え方です。



見上げた粟鹿山

粟鹿地域自治協議会 まちづくり計画プロジェクトチーム 名簿

区名 / 所属	
田中	安田 治行
西地	住吉 正廣
比叡	松原 朋恵
東	足立 裕則
	浦野 伸子
柴	居相 勝己
	安達 一也
一品	藤原 政子
	藤原 喜美夫
上早田	谷村 雄二
	安田 龍美
早田	山本 諭
	山本 昇平
	山根 美香
和賀	寿賀 直太郎
	山本 晃弘
地域づくり部会	高本 均
コスモス会	松原 ますみ

区名 / 所属	編集委員 兼務
比叡	梶原 裕矢
	中島 義明
東	矢持 嘉朗
和賀	村上 真淑
朝来市市民協働課	中嶋 大介
市役所地域担当職員	木村 知晶
	維田 まるみ

団体名 / 所属	
山東支所	安田 雅子
事務局	中尾 盛雄
アドバイザー	柏木 登起

写真提供	安達 幸秀
	伊藤 章恭
	中尾 盛雄
	増田 志伸
	安達 一也



あわが いこいの家 虎臥陣太鼓演奏



あわがふれあい盆踊り



料理教室「餃子」



ふるさとの川であそぼう会



ハロウィン



野菜市



ふるさと自立計画

第2次粟鹿地域まちづくり計画

令和5年3月 粟鹿地域自治協議会

発行責任者 会長 中島義明

